

課題解決型研究プログラム 資源循環研究プログラム

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- 今年度の論文発表は各分野における重要学術誌に発表ができています。世界を牽引する成果を出している。【年度】【事後】
- アジアの途上国向けガイドライン発行や国際標準化支援による貢献は高く評価できる。【年度】
- 持続的な社会システムの創造を目指し、資源利用や物質のフロー・ストック、3Rの基盤技術の開発が期待以上の成果を上げている。また、それらの成果が自治体の政策づくりやアジア圏の強靱な廃棄物処理に反映している。特に現場とのコミュニケーションを重視し、現地対応型の成果を生んでいることも評価できる。【年度】

今後への期待など

- プラスチック問題に対処したことは評価される。プラスチックによる海洋汚染の実態解明を急ぎ、解決策を検討するとともに、社会に向け積極的に情報発信することを期待する。【年度】【事後】
- メタン発酵の事例で国内からアジア地域展開や、民間企業との連携に期待する。【事後】
- 循環利用率の上昇に向けた方策、その際の温室効果ガス削減への効果定量に期待する。【年度】
- 従持続可能社会を実現するための資源利用・循環に係る社会システムには、社会や技術・システムの状況を俯瞰的に捉えるとともに、社会のPreferenceの変化、すなわち中長期的にどのような風が吹くのかを見極めながら社会を強く先導できる研究を期待する。【事後】

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 引き続き、研究成果の国際社会へのインプットに努めて行きたいと思えます。
- ② プラスチック問題に対しては、研究プログラムでも柔軟に対応して関係のプロジェクトで実施しましたが、他にも基盤的調査・研究においても3Rや適正処理に関する様々な研究を既に進めています。一般向けの情報発信についてもSNSや論文を用いて積極的に取り組み、高校生のプラ対策プロジェクトにも助言を行ってまいりました。次期においては、昨今の海洋プラスチック問題も意識して、現体制の選択と集中や対外連携、外部資金の活用などにより、資源循環分野における新たな研究展開を図りたいと思えます。
- ③ メタン発酵技術の展開に対するご期待をありがとうございます。次期中長期計画では、メタン発酵技術を含めてより高度なリサイクル技術の開発を目指しながら、フィードストックリサイクルも意識して進めていく所存です。また今中長期では、メタン発酵技術の適用を中心に進めて成果を得ましたが、対象や評価手法においてもさらに連携を進めたいと思えます。
- ④ ご指摘のように、持続可能な社会に資する技術システムの開発や評価にあたり、先見性、俯瞰的視点、社会的選好や受容性などが重要であることを理解し、次期はプログラムと基礎基盤の双方で研究を進めたいと思えます。